

身近な危険 「慣れている道だから大丈夫？」

こんなことはありませんか？

小学校2年生のやまとさんは、火曜日の夕方、スイミングスクールに通っています。場所は、車だと5分かからず、歩くと20分くらいの所です。いつもは家族の送り迎えですが、この日はなぜか迎えが来ません。やまとさんは歩いて家に向かうことにしました。辺りは暗くなっていて少し不安ですが、「慣れている道だし、大丈夫だろう。」と思い、歩き始めました。

半分程歩いた時、後ろを付いてくる人影に気付きました。
やまとさんは怖くなって、走って大通りへ出ました。

人通りが増えたので少しホッとして、車に気を付けながら歩きました。



ワーク1

今までに、子どもが「怖かった」と言ってきたことはありましたか？
また、親から見て「危ない」と思うことを挙げてみましょう。



.....

.....

.....

.....

ワーク2

自分の身を守るために、子どもが自分で気を付けられるような「約束」について、交流しましょう。



◇他の方の意見をメモしましょう◇



今日気が付いたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか？



今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。



無邪気な子どもが事故や事件に巻き込まれてしまうことはつらい。子どもは素直だから、親からの声かけによって、ずいぶん意識するようになるものだよ。不安にならないように、子どもができる対応方法を一緒に考えておくといいね。地域で子ども達を守れるように意識が高まるといいね。



本和加家の場合



子どもを事故・犯罪から守りましょう!



事故や犯罪の多発時間帯は、下校時(2時過ぎ)～夕食時(6時頃)の間

下校時

- ①一人にならないように、近所のお友だちと一緒に下校するように伝えましょう。
- ②子どもと通学路を一緒に歩いて確認し、危険と感じる箇所があったら、その場で子どもに伝えましょう。また地域の人と相談して『行政に申請』や『通学路の見直し』などを行いましょう。
- ③不審者による「声かけ事案」が増えてきています。人に親切にすることと身を守ることは違うことを伝え、不安な気持ちにならないよう、日頃から親子で対処方法について話をしましょう。

ア:知らない人が付いてきた。

◇まずは近付かれないように離れましょう。

◆すぐに、近くのお店や『子ども110番の家』などを訪ね、大人に伝えましょう。



イ:知らない人が道を聞いてきた。

◇「困っている。」と言ってきても、「本当に困っている人は大人に聞く。」と教えましょう。

◆何も言わずに(もしくは「大人に聞いてください。」と言って)、すぐにその場を離れましょう。

ウ:知らない人(顔は見たことがある人)が、車に乗るように言ってきた。

【こんな言葉で誘います】

「お母さんが交通事故にあったから、病院まで送る。」

「ゲームを買ってあげる。一緒に遊ぼう。」 「おばあちゃんに頼まれた。」

「(子どもが好きなキャラクターを見せて)これをあげるから。」

「お菓子をあげるから。」 「近所の〇〇さんの家の場所を教えて欲しい。」

「一緒に逃げてしまった犬を探して欲しい。」 「駅の場所を教えて。」 など

◆何も言わずに、すぐにその場を離れましょう。絶対に車に乗ってはいけません。

顔を知っている人でも、「家に帰って確認します。」と言って、決して車に乗ってはいけません。

◆すぐにその場を離れ、近くのお店や「子ども110番の家」などを訪ね、大人に伝えましょう。

エ:知らない人が腕をつかんできた。

◆防犯ブザーをならすか、大声を出して、助けを求めましょう。

◆すぐに、近くのお店や「子ども110番の家」、ない場合は近くの家などを訪ね、大人に伝えましょう。

資料3

帰宅後

帰宅後、友達と遊ぶ約束をしていたり、習い事に行ったりするなど、一人で家を出ることがあります。不審者による声かけ事案は、下校時だけでなく、帰宅後にも発生していることを知しましょう。

【こんな場所でも】

- ア:公園で、写真を撮ってあげると言われた。
 イ:公園のトイレ、大きな遊具の裏など、人があまり通らない場所で、声をかけられた。
 ウ:図書館で、本棚の死角から声をかけられたり、腕をつかまれたりした。
 エ:マンションの入り口、エレベーター付近、自転車置き場等で、部屋番号を聞かれた。
 オ:ショッピングセンターで、住所や電話番号を聞かれた。



他にも、様々な場所での事例があります。

普段から親子で話をし、子ども自身が気をつけられるように導きができるとういですがね。

【親子の約束を作ろう】

- ①一人で目的なくウロウロしない。
- ②誰と、どこで遊ぶのか、何時に帰ってくるのか、必ず家の人に伝えてから出かける。
- ③大通りには、子どもだけで出ない。 など。

【こんなふうに対応しよう】

<写真>勝手に写真を撮られていることに気付いたら、すぐにその場から離れ、必ず大人に言うように伝えましょう。「写真ぐらいいいか。」と思わぬよう、その後、どのように使われるか分からない危険性について普段から伝えておきましょう。

<声かけ>知らない人に声をかけられたら、すぐにその場から離れ、大人や警察に伝えることを徹底しましょう。とっさに腕をつかまれても助けを呼べるよう、練習で大声を出してみるのも効果があります。

<被害にあってしまったら>親に叱られることを恐れ、黙っていることがあります。「他の人が同じような思いをしないように、嫌なことがあったら何でも教えてね。」と伝え、子どもがいつでも相談しやすいよう、普段からコミュニケーションを円滑にしておきましょう。子どもが打ち明けてきたら、まず「よく話してくれたね。」と安心させましょう。

上記は一例で、他にも多くの報告があります。親がわが子に伝えること以外に、地域で大人ができることについても考えてみましょう。

- 近所の方にわが子を知ってもらえるよう、地域の行事に参加する。
- 子どもが話しやすいよう、近所の子とも日頃からコミュニケーションを図る。
- 一人で歩いている子を見かけたら、「さようなら。」「まっすぐ帰ってね。」「車に気をつけてね。」などの声をかける。
- 「不自然な子ども連れ」と感じたら見過ごさず、声をかけるか警察に通報する。
- 「あいさつ運動」「登・下校時の見守り」「巡回パトロール」を定期的に行う。

不審者は、大人に声をかけられることを嫌います。常に地域の目が届いていることがわかるように、挨拶の多い地域にしていきましょう。地域とのつながりが、子どもを守ります。

「地域の おじさん・おばさん運動」

(ソーシャルアンクル・ソーシャルアUNT運動)

あなたも、「地域のおじさん・おばさん」になってください。

地域の子どもは、地域で守り育てる

非行や犯罪、いじめの多発、ひきこもり…。加えて社会の規範意識の低下、親子関係の希薄化など、子どもたちをめぐる問題が深刻になっています。「子どもは社会を写す鏡」。そんな考え方に立ってみると、私たち大人の方から、先にしなければならないことがたくさんあります。

「地域のおじさん・おばさん運動」は、“地域の子どもは、地域で守り育てる”を合い言葉に、大人が子どもたち一人一人を温かく見守りながら、ときに励まし、ときに注意や助言をすることにより、地域の連帯感と教育力を高めることを目的にした運動です。

たとえば、こんなことからいいんです

- よいことは、自ら率先して行動しましょう。
- まず、子どもたちに温かい声をかけましょう。

あいさつはすべての基本。身近な子どもたちに“おはよう”、“こんにちは”と積極的に声をかけてください。良い行いを目にしたときは、ためらわず褒めてあげましょう。逆に、危険な遊びやルール違反は、見て見ぬふりをせず、注意しましょう。

でも、こんなことには気をつけて

- 身の危険を感じたら無理をしないでください。

自分の身に危険を感じるような場面では、決して無理をしないこと。補導員や警察官など専門家の意見や、助言・指示を得ながら対処することが大切です。

- 補導や取り調べとは違います。

「地域のおじさん・おばさん」は、公的機関等から認定された資格・身分ではありません。子どもたちの健全な成長を願う大人のボランティア活動です。子どもたちを「補導」したり、「取り調べ」したりはできません。



日常生活の場でこんな活動が期待されています

実践例



(公社) 岐阜県青少年育成県民会議

電話 058-272-1111 (内線 2429) E-mail g-ikusei@ip.mirai.ne.jp

URL <http://www.ip.mirai.ne.jp/~g-ikusei>

「地域のおじさん・おばさん運動」登録申込書

私は、「地域のおじさん・おばさん運動」の趣旨に賛同して登録を申し込み、地域において積極的に実践活動を展開していきます。

令和 年 月 日

※登録していただいた個人情報については、青少年健全育成業務に利用する目的に限り、(公社)岐阜県青少年育成県民会議及び当該青少年育成市町村民会議と共同利用させていただきます。このことに同意いただける方は、右のチェック欄に✓点をご記入ください。

チェック欄

住所	
氏名	

※お住まいの各青少年育成市町村民会議（各市町村の青少年育成担当課）へお申込みください。

身近な危険を親子で一緒にチェックしよう!

身のまわりにはたくさんの危険があります。通学路を基準に子どもの行動範囲を親子で一緒に歩いたり、近所の人に聞いたりして、チェック(☑)してみましょう。

- 交通量は? □見通しの悪いところは? □人通りの多さは?
- 死角は? □一人きりになる場所は? □子ども110番の家は?
- 大雨になったとき危険な場所は? □地震が来たら危険な場所は?



また、その危険に対して、どのように気をつける必要があるか、どのような対処をしたらよいのかを話し合い、親子の約束事にしておきましょう。

●自宅周辺・通学路の地図とチェックした場所


【記入例】



進行案

ねらい

○行動範囲の広がる小学校低学年の子ども自身が、身近にある危険（交通事故や不審者）を理解し、自ら回避できるように親が導く方法を交流しましょう。

時間	進め方	留意点
10分	<p>はじめのことば</p> <p>「みなさん、こんにちは。本日は参加いただきありがとうございます。今日は子どもの『身近な危険』について考えましょう。」</p> <p>アイスブレイク</p> <p>「最初にみなさんで簡単なゲームを楽しみましょう。では、やり方を説明します。」</p> <p>◆②『他己紹介』というゲーム型の自己紹介。まず、2人ペアでインタビューし合い、その後、グループの中でインタビューした人を紹介する。</p>	<p>◇笑顔で親しみやすい言動を心がける。</p> <p>小道具として「お茶」やちょっとした「お菓子」があると、やわらかい雰囲気を演出し、話も弾みやすくなる。</p>  <p>◇「7 アイスブレイク②」参照。</p>
30分	<p>3つの約束の確認</p> <p>「では、これから活動に入りますが、その中でみなさんに守ってほしい約束が3つあります。」</p> <p>◆3つの約束を確認する。</p> <p>ワークショップ</p> <p>「まず、ワークシートをご覧ください。」</p> <p>◆「こんなことはありませんか?」を読む。</p> <p><ワーク1></p> <p>「今までに、子どもが「怖かった」と言ってきたことはありましたか?また、親から見て「危ない」と思うことを挙げてみましょう。」</p> <p>◆ワークシートに考えをメモし、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが「知らない人が話しかけてきた。」と言った。 ・子どもが帰ってきて「友達の後を追いかけて道を渡るうとしたら車が来てぶつかりそうになった。」と言った。 <p><ワーク2></p> <p>「子どもが危険を回避できるような『約束ごと』を交流してみましょう。」</p> <p>◆ワークシートに考えをメモし、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人の車には「お菓子をあげる」と言われても、絶対に乗らない。 ・通りに出るときは右左右を確かめる。など 	<p>◇「3 3つの約束」参照。</p> <p>◇家庭内の話題も出るため、信頼関係が大切であることを理解してもらう。</p> <p>◇「5 進行役について(1)子育てサロン型」参照。</p> <p>◇ワークシートにメモする時間がなければ、そのまま交流に入ってもよい。</p> <p>◇参加者が話しやすくなるよう、進行役が最初に困っていることや悩んでいることを話すもよい。</p> <p>◇時間配分を考え、全員に話す機会を与える。</p>
20分	<p>振り返り</p> <p>「今日の話し合いを聞いて、よいと思ったこと、やってみようと思ったことは何ですか。」</p> <p>◆ワークシートに考えをメモし、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは親子で子どもの通学路やよく遊ぶ場所を見に行き、ヒヤリとしたことを思い出させてみたいです。 ・交通事故の危険について一緒に考えてみます。 <p>「いろいろな意見の中には、今日からいかせそうなヒントがありました。私は○○さんの△△という意見がなるほどと思いました。気づかない危険があるので、親子で話し合い、実際の場所で確認してみたいです。話し合うことで気持ちが軽くなった方もいらっしゃるでしょう。これからも積極的にこうした機会を活用してください。」</p>	<p>◇代表で1~2人に話してもらう。</p> <p>◇時間があれば、資料1~4を配布し、読む。</p> <p>◇進行役が参加者と同じ目線で「こんなヒントをもらった」という話ができるとよい。資料5を使って親子で確認してみようとする活動につながります。</p>